

論文題目：中国におけるボランティア活動の発展に資する中間支援組織研究
—日本のボランティア・市民活動の発展段階を踏まえて—

氏名：遅 力榕

要約：

本論文は、中国におけるボランティア活動（ボランティア活動、福祉活動、非営利活動等を含む広い概念）の持続的かつ発展的な展開のために、その推進主体としての「中間支援組織」の必要性や役割、機能および可能性について、特に日本におけるボランティア活動の発展段階を踏まえつつ、論じたものである。

経済的、政治的、社会的状況における多様な変化と難題に直面している中国では、様々なボランティア活動が行われるようになってきている。2008年の中国の「ボランティア元年」を契機に、中国政府は、「中華人民共和国慈善法」（2018）、ボランティア活動と活動組織に関して詳細に規定する「ボランティア・サービス条例」（2017）などの策定・公布を通して、ボランティア活動の活発な展開を強力に後押ししている。しかしながら、中央集権国家の中国のなかで、従来では「ありえない」とされたボランティア活動を健全に発展させるためには、推進主体と方法の提示が肝要であると考えている。

このような問題意識のもとに本論文では、活動組織と行政との間の調整を担う「中間支援組織」の役割が重要であると主張する。そして、今後の中国における中間支援組織の意義やあり方について、欧米のボランティアリズムや、中国の文化と近似性を持つ日本のボランティア活動の発展段階を踏まえつつ、議論を展開している。

本論文は3部構成となっている。第Ⅰ部では、中国のボランティア活動をめぐる状況とボランティアリズムについて論じている。特に行政とボランティア活動組織間にまつわる困難を解決するための方法として、中間支援組織へと着目したことを述べている。

第Ⅱ部では、中間支援組織の課題と必要性を理論的に、および歴史的展開を通して検討している。日本、欧米、中国の中間支援組織に関する文献レビューのうえで中間支援組織の定義、機能、類型を分析し、中間支援組織が発揮すべき機能をこれまでの支援的な機能にとどまらず、協働における組織間関係調整を担う役割の必要性を提起している。

第Ⅲ部では、中間支援組織によるボランティア活動を推進の実際と推進方策について、日本と中国とのボランティア組織調査の結果をもとに論じている。地域レベルと全国レベルでの日本と中国の先駆的実践を分析し、中間支援組織の役割や機能を提示しつつ、対話と協働のプラットフォーム、ネットワーク組織の必要性、行政を巻き込む「立体的な協働」モデルの必要性について、実証的に論じている。

ボランティア活動が、本来の「ボランティアリズム」に基づいて、持続的かつ発展的に展開するために、中間支援組織に求められる組織間（行政と活動組織間）関係の仲介・調整的機能の発揮は極めて重要である。とりわけ、今後の中国におけるボランティア活動の発展のためには、多様な主体によるボランティア活動への参加と協働の推進、行政とボランティア組織間のパワーの不均衡や利害関係の調整などが求められるなかで、中間支援組織が果たしうる役割と機能および可能性について、今後のさらなる研究が必要になると考える。